

# 英語科学習指導案

日時 平成19年10月26日(金)5校時

学級 3年3組(男子22名 女子17名 計39名)

指導者 佐藤 香織

## 1 単元名 Unit 5 Cell Phones - For or Against? ( NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK )

### 2 単元について

#### (1) 単元について

本単元は、携帯電話を題材としており、自分なりの意見を持ち、それを的確に表現する力や、表現しようとする態度を養うことを目標としている。この目標は、学習指導要領における次の事項と関わる。

第2章・第2節「第3学年の目標」

- (1) 初歩的な英語の文章を聞いて、話し手の意向などを理解できるようにするとともに、英語を聞くことに習熟し、英語を聞いて理解しようとする積極的な態度を育てる。
- (2) 初歩的な英語の文章を用いて、自分の考えなどを話すことができるようにするとともに、英語で話すことに習熟し、英語で話そうとする積極的な態度を育てる。

これからの国際社会に生きる日本人として、生徒に相手の意見や考え方などを外国語を通して理解させることや、自分の意見や考え方を外国語を通して積極的に伝えさせることは、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていく資質・能力を養うために重要である。

本単元では、携帯電話を話題にした議論を扱っている。Starting Out の部分は、電話の歴史の説明文、Dialog では携帯電話使用に関してのマイクと母の対話文、Reading for Communication は、インターネット上の掲示板で展開される携帯電話についての意見交換の様子で構成されている。携帯電話を持っている生徒は多く、身近なものである。生徒たちが自分なりの意見を持ち、それを相手に的確に伝えるためのテーマとして大変効果的なものと思われる。また、携帯電話の使用の是非を巡って、相手の意見に賛成や反対をしたり、その理由を述べる際の表現や、議論の際に役立つ表現が多く取り上げられている。生徒にとって身近な生活場面に関わるため、自分の考えを出しやすいものと言える。そこで、本単元の学習では、身近なテーマに関する自分の意見を英文で書き、相手に伝える活動を中心に据え、表現する力を養いたいと考える。

#### (2) 言語材料について

言語材料は、「現在分詞および過去分詞の後置修飾」と「間接疑問文」である。これらの言語材料は決して生徒にとって理解しやすいものとは言えない。しかし、中学校での学習もまとめの段階に入ったこの時期に、これらの学習を行うことは、これまでに学習した現在分詞や過去分詞、疑問詞の様々な用法を、比較・関連させながらまとめるのに適した機会と言える。

また、より複雑な構文を学習することにより、生徒の表現の幅は大きく広がり、コミュニケーション活動もより多様な展開が可能となる。この教材は、定型表現の単語を置き換えるだけの機械的な操作をさせるのではなく、伝えたい意味内容を、それぞれの生徒の能力に応じて、その場面に最も適した表現ができるよう工夫させるのに適していると言える。

そこで本題材では、携帯電話という身近な話題をきっかけにして、生徒の興味・関心に訴えながら、自分の考えや意見を述べる際の定型表現や表現のやり方、同意や反対の仕方、理由の述べ方、議論の整理の仕方等について理解させたい。そして言語活動の側面からは、言語材料の定着を図りつつ、言語使用の具体的な場面や状況を設定し、適切な表現を生徒自身に考えさせ、より実際のコミュニケーションに近い状態で英語を運用させたい。

### (3) 生徒について

明るく活発なクラスで、積極的に挙手をする生徒も多く、全体的に英語学習に意欲的に取り組む生徒が多い。生徒はこれまでの中学校の授業において、身近なことについて話される初歩的な英語を聞いて理解し、既習事項を用いて自分の考えを話すことができるようになるような学習を行ってきたが、今後もその力を定着させ、伸ばす必要がある。

授業に先立ち、英語学習についての実態調査を行ったところ、次のような結果が得られた。

・対象：3年3組37名（単位：人）	
1 英語の学習で、最も不安を感じることは次のどれですか。	
ア 書くこと 24	イ 話すこと 3
ウ 聞くこと 7	エ 読むこと 2
オ その他 1（あまり感じない）	
2 英語の学習を通じて、自分が最も身につけたいと思う力は次のどれですか。	
ア 書くこと 16	イ 話すこと 14
ウ 聞くこと 3	エ 読むこと 4

以上のことから、最も不安を感じることは「書くこと」が圧倒的であり、単語を忘れてしまう、語順がわからないといった理由をあげている。また、最も身につけたい力は「書くこと」「話すこと」の表現面が中心となっている。このことから、「聞くこと」で何とか英語でコミュニケーションをとることはできるものの、自分が言いたいこと、表現したいことを相手に十分に伝えることができずにもどかしい思いをしている実態や、自分の考えや想いをできるだけはっきりと相手に伝えたいという生徒の願いが伺える。

そこで、本単元では、生徒による互いの考えを発表する場面を取り入れることとする。生徒の中には英語に抵抗を持っている生徒もいるので、始めは日本語で行い最後は英語で表現できるような指導の組み立てを行う。また、相手の考えを聞くことで、自分の考えを深め表現の幅を広げることへとつながるものと考え。

### (4) 指導の構想

本校の研究主題「学ぶ力を鍛える授業」に迫るために本科では、「基礎・基本を定着させるコミュニケーション活動のあり方」を教科研究主題として掲げている。すなわち、コミュニケーション活動場面において、自己表現の機会を取り入れることによって、生徒一人一人が基礎・基本的内容を理解し、自ら問題解決に向かう姿勢を養うことをねらう「学ぶ力を鍛える授業」が実現されると考える。

そこで、本題材でなされている携帯電話の使用の是非をめぐる議論をもとに、題材を読むことから始め、自分の考えを書くこと、そして発表をすることを段階的に行う指導を進めていく。

以上のことを踏まえ、本単元における生徒及び教師の役割について、次のようにおさえる。

- 【生徒の役割】 学習課題や授業の流れを理解し、課題意識を持って授業に臨む。  
学習課題を受けて、その時間の自分の学習のめあてを持ち、課題解決に努める。  
その日のねらいとする言語材料を理解するために、言語活動に前向きに取り組む。  
自分の考えを持ち、ペアやグループ間で発表し合うことで、自分の考えを見直す。  
ともに学ぶ仲間として、相手のよさを認め合い授業を振り返る。
- 【教師の役割】 指導目標を明確にし、学習の過程を生徒に分からせ、課題意識を持って授業に臨ませる。  
個人差のある生徒一人一人に、その時間の自分の学習のめあてを持たせ、成就感を味わわせることができる授業となるように配慮する。  
言語材料を運用できるような言語活動が行えるように配慮する。  
ペアやグループ学習を取り入れ、互いに教え合い、励まし合いながら学習に取り組めるように配慮する。  
言語材料の定着を図るとともに、互いのよさも認め合えるような評価の工夫をする。

### 3 単元の目標

- (1) 携帯電話の使用のあり方について自分の考えをまとめ、それを英語で表現したり、表現しようとする態度を身につける。
- (2) 現在分詞及び過去分詞による後置修飾の表現を用いて、自分の考えを表現できる。
- (3) 携帯電話の使用に関する本文（議論）を読み、内容を理解する。
- (4) 現在分詞及び過去分詞による後置修飾や間接疑問文の形・意味・用法を理解する。

### 4 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度意欲	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
教科書の基本本文を用いた対話や自分の意見を英語で表現する活動に意欲的に取り組むことができる。	聞き手が理解できるように音読をする。また、自分の話したいことを、現在分詞及び過去分詞による後置修飾や間接疑問文などを用いて英語で表現できる。	現在分詞及び過去分詞による後置修飾や間接疑問文の意味を理解することができる。また、教科書本文の内容を理解することができる。	現在分詞及び過去分詞による後置修飾や間接疑問文の英文の構造を理解して英文を書くことができる。また、意見交換に必要な表現を用いて、自分の考えを英文で組み立てることができる。

### 5 単元の指導計画

時	到達目標
1	【Starting Out】 現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形・意味・用法を理解し、表現できる。
2	【Dialog】 間接疑問文の形・意味・用法を理解できる。
3	【Reading for Communication】 本文の内容を読み取り、自分なりの考えを持ち、英語で書くことができる。
4 本時	【Reading for Communication】 自分の考えを発表し、相手の考えを理解できる。
5	【Reading for Communication】 ディベート活動を通じて、自分の考えをより明確に英語で表現できる。
6	【Listening Plus 5】 議論を聞いて、各々が賛成か反対か、その理由は何かを聞き取ることができる。
7	【Writing Plus 1】 自分の意見とその理由を、文章の構成に気をつけて書くことができる。

## 6 本時について

(1) 主題 「『携帯電話は必要かどうか』について、自分の考えを英語で表現しよう」

(2) 目標

自分の考えを英語で書き表し、相手が理解できるように話すことができる。

相手の考えを聞き、自分の考えとの違いを理解できる。

(3) 本時における【生徒の役割】【教師の役割】

本時の目標を達成するために、生徒及び教師の役割を次のようにおさえる。

【生徒の役割】 本時の学習課題を理解し、意欲的に授業に臨む。

自分の考えを英語で書き、相手が理解できるように話す。

相手と自分の考えの違いを理解し、評価し合う。

【教師の役割】 本時の学習課題を明確にし、授業に意欲的に取り組ませる。

生徒が英語で自分の考えをまとめることができるように、適切な支援を心掛ける。

生徒が英語で自分の考えを話せるように、適切な支援を心掛ける。

(4) 本時の評価規準

	評価規準	評価方法	Aの状況例	Cの状況例
知識	自分の考えを英語で書くのに必要な文型・表現方法を理解できる。	学習プリントへの記入時の観察	既習事項を理解し、英文を3文以上書いている。また、文のつながりを考えた内容になっている。	既習事項の理解が十分でなく、自分の考えを英語で書くことができない。
表現	自分の考えを英語で話すことができる。	発表する場面での観察	自分の考えを英文で言う時、暗記している状況が見られる。また、話し方を工夫している。	学習プリントを見ながら発表している。また、不明瞭な話し方になっている。
理解	相手の考えを聞き取り、自分の考えとの違いを理解できる。	評価カードへの記入時の観察	相手の考えを聞き取り、自分の考えとの違いを理解し、評価カードへ記入している。	相手の考えを十分に聞き取れず、周囲の支援が必要になっている。

7 本時の展開案

段階	学習活動	生徒の活動	指導の留意点・評価方法
導入 10分	1 あいさつと Warm-up	・既習基本文の英文添削に取り組む。	意欲的に取り組んでいるか。 (意欲)
	2 前時の復習	・本文を読み、内容を確認する。	
展開 35分	3 課題の把握	・本時の課題を把握する。	
	「携帯電話は必要かどうか」について自分の考えを英語で表現しよう		
	4 課題の追求 日本語による発表	・前時に書いたものをもとに、自分の考えを日本語で発表する。	・各班1名程度が発表する。
	英語で書く	・自分の考えを英語でまとめる。	既習の文型や表現方法を理解し、つながりよく英文を書くことができる。 (知識)
	練習	・暗唱して言えることを目標に、自分の考えを英語で言う練習をする。	【教師の役割】 机間巡視し、英文完成の支援をする。  【生徒の役割】 英文を完成させ、相手に伝わるように話す練習をする。
発表	・班内で発表する。 ・相手の発表の内容を評価カードに記入する。	【教師の役割】 個別指導の必要な生徒への支援をする。  自分の考えを英語で話すことができる。 (表現) 相手の考えを英語で理解できる。 (理解)	
まとめ	・感想を発表する。	【生徒の役割】 相手と自分の考えの違いを理解し、評価する。	
終末 5分	5 本時のまとめ	・自分の考えを英語で表現する時のポイントを確認する。	・発表の場面を振り返り、気づいたことを確認させる。
	6 自己評価	・自己評価する。	・学習プリントに記入する。
	7 次時の予告・あいさつ		